

緑町児童センター整備計画について

富良野市保健福祉部こども未来課

1. 現在の緑町児童館の概況

(1) 敷地面積：536.25 m²

(2) 建築面積：199.665 m²

遊戯室：87.480 m²

事務室：17.010 m²

調理室：16.200 m²

集会室：35.640 m²

玄関、物置、廊下、手洗所、便所

(3) 構造：木造モルタル塗 長尺カラートタン葺

(4) 建築月日：昭和52年10月18日

(5) 整備の目的

緑町児童館は、昭和52年に建設され、子どもたちに「遊びや体験」を通し、人と人が世代を超えてつながり合える場所として、地域に親しまれてきました。また、平成10年には、学童保育施設として、昼間保護者のいない家庭の小学1年生から3年生の育成、指導を行い、定員20名のところ平成23年4月時点で47名の児童が登録しており、施設の老朽化や狭隘等による安全性が課題となっています。

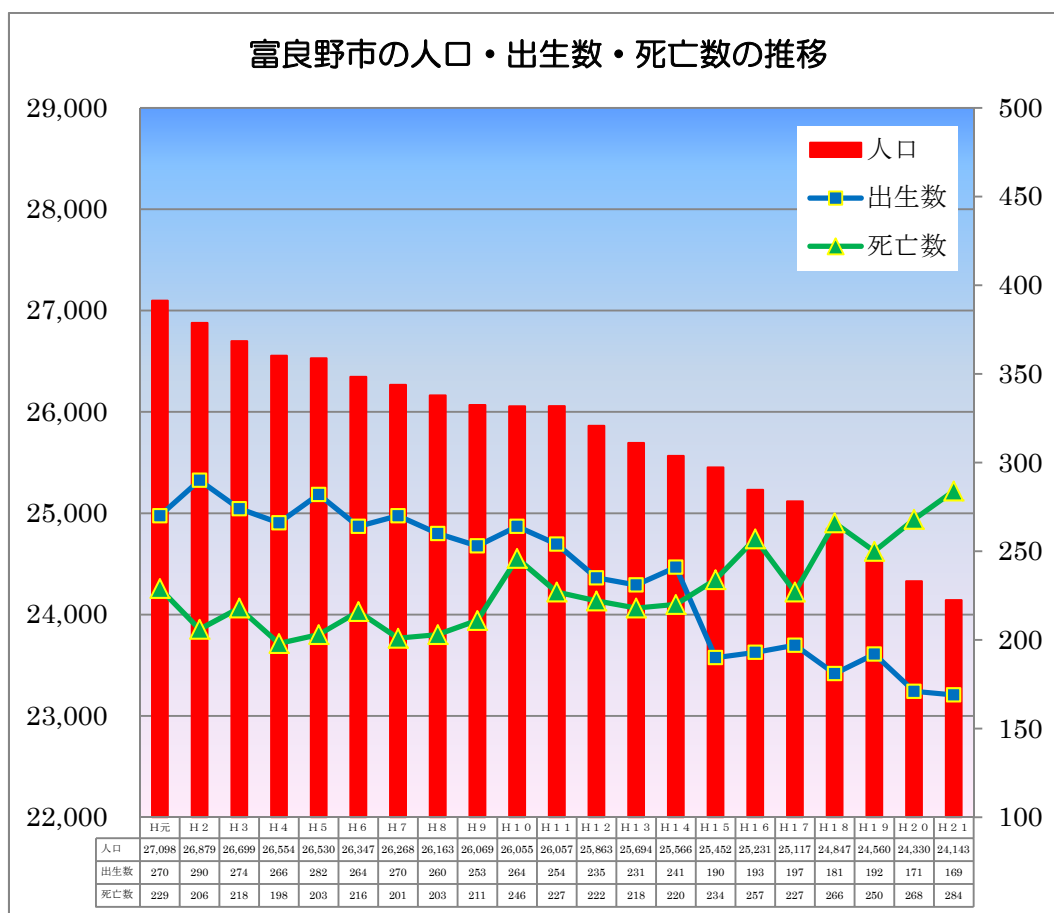


そのため、富良野市では、扇山小学校区の学童保育や児童館としての機能を充実させ、子どもを心身ともに健やかに育成されることを目的に新たな児童センターの整備を計画しています。

2. 富良野市の人口・出生数の推移

富良野市の人口は、平成時代に入り平成元年度の27,098人をピークに年々減少し、平成21年度には24,143人とこの20年間で2,955人も減少しています。

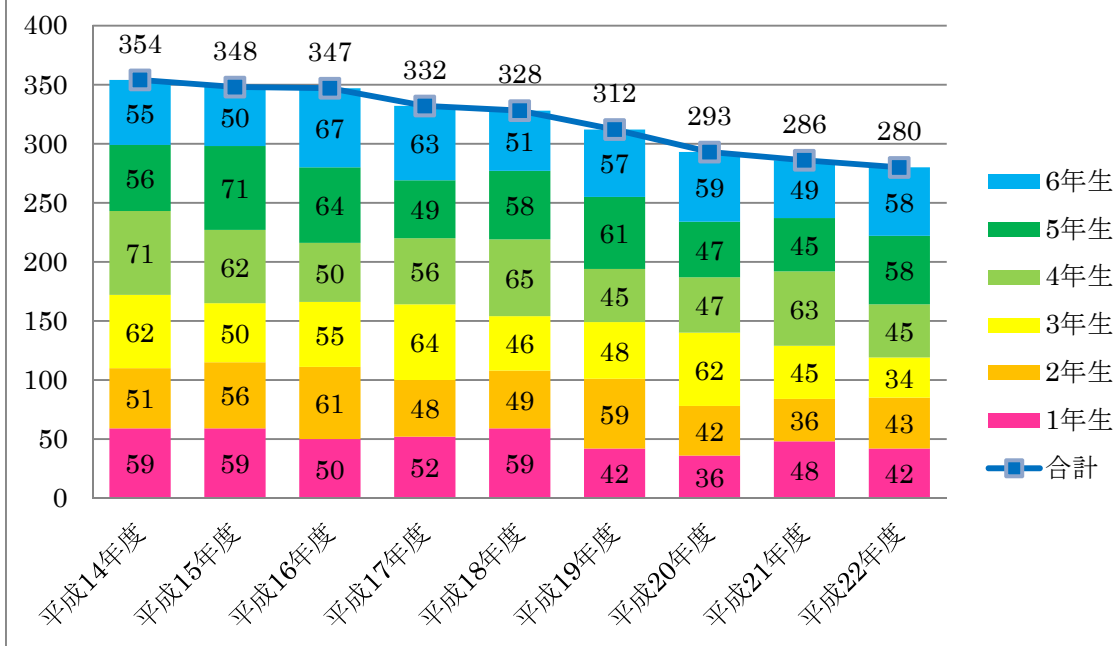
この間、出生数は平成元年度の270人から平成21年度には169人と101人も減少し、特に平成15年度は前年度の241人から190人と1年間で51人も大幅に減少しています。



3. 扇山小学校の児童数と緑町児童館の利用者の推移

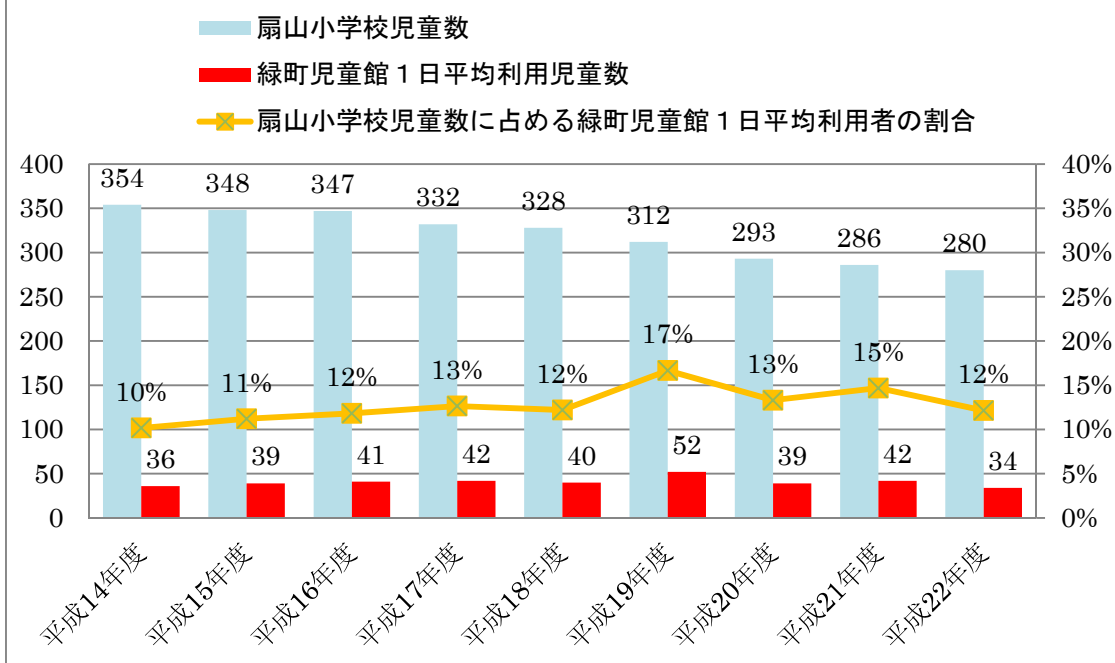
扇山小学校では、本市の出生数の影響により、平成14年度に354人いた児童数が、平成22年度に280人と、この8年間で74人減少しています。さらに、平成20年度の小学1年生は36人となり、この学年に限り1クラス編成となっています。

扇山小学校児童数の推移

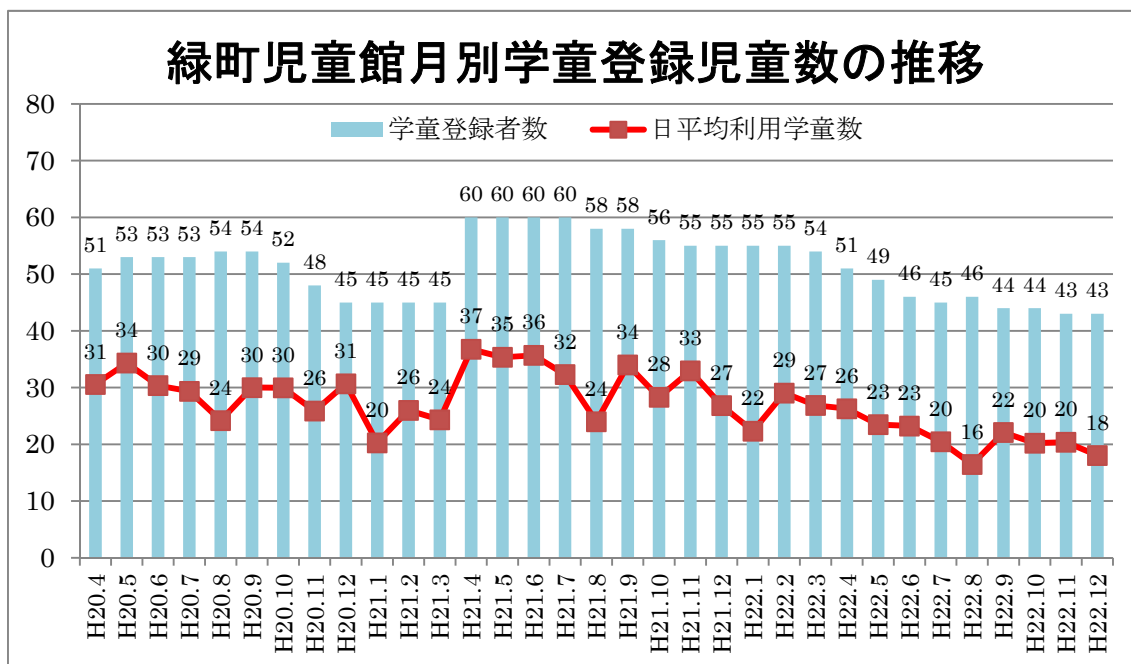


緑町児童館の1日あたり平均利用児童数は、平成19年度の52人（扇山小学校児童数に対して17%）をピークに平成22年度は34人（12%）となっています。

扇山小学校と緑町児童館の割合



緑町児童館では、学童保育定員が20人に対し、平成21年4月から7月までは60名と定員の3倍の学童が登録していました。しかし、平成22年5月からの学童登録者数は50人を下回り、現在（平成22年12月時点）では43名となっています。また、学童登録者のうち、実際に利用している学童数の月平均利用数は、20人前後となっています。



4. 緑町児童センター学童定員の設定

これまでの状況分析より、

- ①富良野市の出生数の推移から、今後、大幅な児童数の増加は望めない。
 - ②富良野市全体の出生数が減少傾向にあることから、扇山小学校の児童数も減少することが想定される。
 - ③平成22年度の緑町児童館1日当たり平均利用児童数は、34人となっている。
 - ④平成22年度の緑町学童保育センターの月別登録者数は45人を下回っている。
- よって、新たな緑町児童センターの学童定員は、**45人**と設定する。

5. 児童館の設置運営要綱（厚生労働省厚生事務次官通知）

（1） 目的

児童館は、児童福祉法に基づく児童厚生施設であって、児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とするものであること。

（2） 機能

児童館は、小地域を対象として、児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにするとともに、母親クラブ、子ども会等の地域組織活動の育成助長を図る等児童の健全育成に関する総合的な機能を有するものであること。

児童センターでは、さらに、遊び（運動を主とする。）を通して体力増進を図ることを目的とした指導機能を有し、必要に応じて年長児童に対する育成機能を有するものであること。

（3） 設備

建物には、集会室、遊戯室、図書室及び事務執行に必要な設備のほか、必要に応じ、相談室、創作活動室、静養室及び児童クラブ室等を設けること。

建物の広さは、児童館の場合、217.6 m²以上、児童センターの場合、336.6 m²以上とする。

6. 放課後児童クラブガイドライン（厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知）

（1） 対象児童

対象児童は、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校1～3年に就学している児童であり、その他健全育成上指導を要する児童（特別支援学校の小学部の児童及び小学校4年生以上の児童）も加えることができること。

（2） 規模

放課後児童クラブにおける集団の規模については、おおむね40人程度までとすることが望ましい。

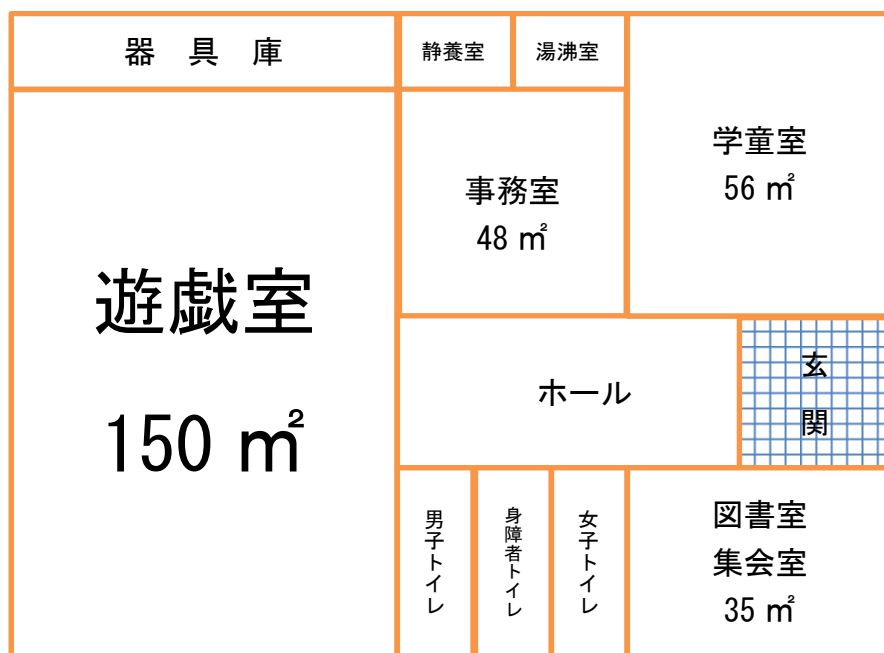
（3） 施設・設備

児童のための専用の部屋または間仕切り等で区切られた専用スペースを設け、生活の場としての機能が十分確保されるよう留意すること。

子どもが生活するスペースについては、児童1人あたりおおむね1.65 m²以上の面積を確保することが望ましい。なお、子どもの体調が悪い時などに休息できる静養スペースを確保すること。

7. 緑町児童センター整備計画図

各室名	規模	面積
遊戯室	15m×10m	150 m ²
図書室・集会室	5m×7m	35 m ²
学童室	8m×7m	56 m ²
事務室（静養室・湯沸室含）	8m×6m	48 m ²
トイレ	5m×6m	30 m ²
玄関	4m×4m	16 m ²
ホール	4m×9m	36 m ²
器具庫	2m×10m	20 m ²
合計	17m×23m	391 m ²



【参考】 5館の各室面積 (m²)

	遊戯室	学童室	事務室	トイレ	集会室	建物面積
麻町児童センター	174.96	35.23	17.69	21.60	64.22	417.42
桂木児童センター	150.00	30.73	21.21	16.42	56.25	403.39
東部児童センター	150.00	28.00	22.00	22.50	65.00	416.60
北の峰児童館	130.53	34.78	15.72	26.02	15.29	291.01
緑町児童館	87.48	35.64	17.01	12.15	0	199.66

8. 建設候補地の選定

候補地	場 所	住所	面 積
1	現緑町児童館敷地	緑町 13 番	536 m ²
2	扇山小学校敷地内 (国道と体育館の間)	緑町 8 番	900 m ²
3	ハローワーク裏手の未 利用財産市有地	緑町 9 番	1,316 m ²



8. 建設候補地のメリット・デメリット

候補地1

【メリット】

現緑町児童館は、緑町・扇町・南町などの周辺地域から愛され、みどり公園とも隣接していることから、地域のコミュニティの場として活用されている。

【デメリット】

現敷地は、536㎡と狭く、本敷地内で建設する場合、321㎡以下（建蔽率60%）の建物しか建てられない。また、若葉町、春日町など扇山小学校校区北側に居住する児童からは遠い位置にある。



候補地2

【メリット】

扇山小学校体育館と国道38号線との間に建設することで、扇山小学校児童の学童保育利用者の交通利便がよい。

【デメリット】

扇山小学校校庭内の一部（約400㎡）に建設することで、学校管理と児童館管理の区分整理が必要となる。また、子どもの送迎のため、国道38号に駐車される可能性がある。



候補地3

【メリット】

扇山小学校、及びハローワークに隣接していることから、扇山小学校児童の学童保育利用者の交通利便がよい。

【デメリット】

国道38号の出入口は、ハローワーク出入口と近接しているため、交通混雑が想定される。また、車の送迎は施設まで50m程度幅の狭い砂利道を通らなければならない。



9. これまでの経過と今後の予定

時 期	取 組 内 容
平成 23 年 1 月 27 日	緑町児童館児童厚生員へ計画案の提示
2 月 1 日	緑町児童館長へ計画案の提示
2 月 4 日	扇山小学校校長・教頭へ計画案の提示
2 月 10 日	扇山小学校 P T A 四役へ計画案の提示
3 月 3 日	市内 5 学童保育センター児童厚生員（15 名）へ計画案の提示
4 月 15 日	緑町児童館運営委員会へ計画案の提示
4 月 21 日	扇山小学校児童保護者、及び市民を対象に整備計画説明会の開催
5 月	4 月 21 日の整備計画説明会において、地域、利用者、学校からの意見を踏まえ、市として 3 か所の建設候補地から 1 箇所を選定し、パブリックコメント手続きの予告
6 月	緑町児童センター整備計画のパブリックコメント手続きを実施
7 月	パブリックコメント手続きの結果を踏まえ、建設候補地の決定
8 月	緑町児童センター実施設計委託 厚生労働省へ平成 24 年度国庫補助金概算要求
平成 24 年 6 月	緑町児童センター整備工事発注
1 2 月	工事完成